

第2章 高齢者の地域活動参加促進手法

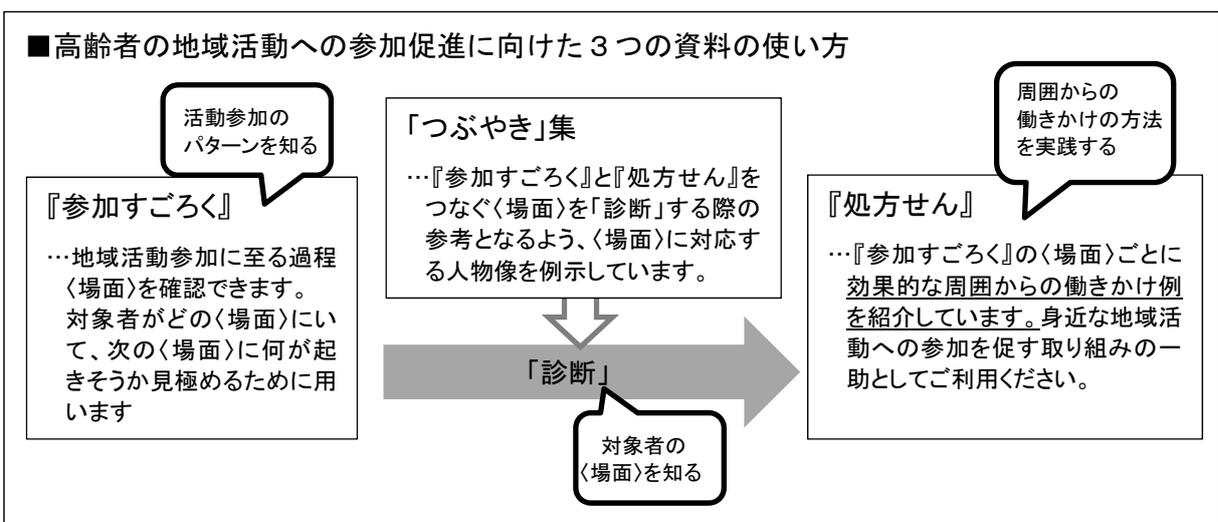
高齢者が支える地域社会づくりを豊かに育てていくためには、これまで地域活動に関心が低かった高齢者や参加のきっかけがなかった高齢者にも協力してもらいやすい仕組みを作り出すとともに、参加者が続けたい・続けられると思える活動を地域に増やしていくことが大切です。

このため、現に活発な地域活動が行われている団体（表 2-1）の皆さんに、地域活動に参加したきっかけや現在の活動状況、参加し続けられている要因等についてインタビュー形式でお話をうかがいました。こうして集めた情報を分析したところ*、ある高齢者が地域活動に出会い、試みに参加し始めたところから、継続的に活動に参加するようになるまでには、いくつかの過程があり、パターンがあることがみえてきました。

本章ではこうして得られた知見をもとに、高齢者が地域活動参加に至るいくつかの過程を〈場面〉としてとらえ、ある〈場面〉のマスから次の〈場面〉のマスに移ることを「すごろく」になぞらえてまとめてみました。『参加すごろく』（19 ページ）では、ある高齢者の地域活動との関わりの状況を〈ふりだし〉として、いくつかの〈場面〉を経て、当該活動における参加状況を示す〈あがり〉に至る過程が導き出されています。

また、高齢者の意識が、ある〈場面〉から次の〈場面〉に移る時には、周囲の人々の働きかけが重要な役割を果たしていることも分析から分かりました。このため、すごろくの各〈場面〉に応じて、活発に活動している団体での取り組みを参考に、ある〈場面〉から次の〈場面〉へと進むために役立つ働きかけ例を『処方せん』（22～39 ページ）としてまとめました。

なお、効果的な働きかけを行うためには、対象となる高齢者が『参加すごろく』のどの〈場面〉にいて、どの『処方せん』の働きかけが有効と思われるかを見極める「診断」が大切です。その手助けとなるように、各〈場面〉に対応する人物像の「つぶやき」集（20 ページ）もまとめましたので参考としてください。



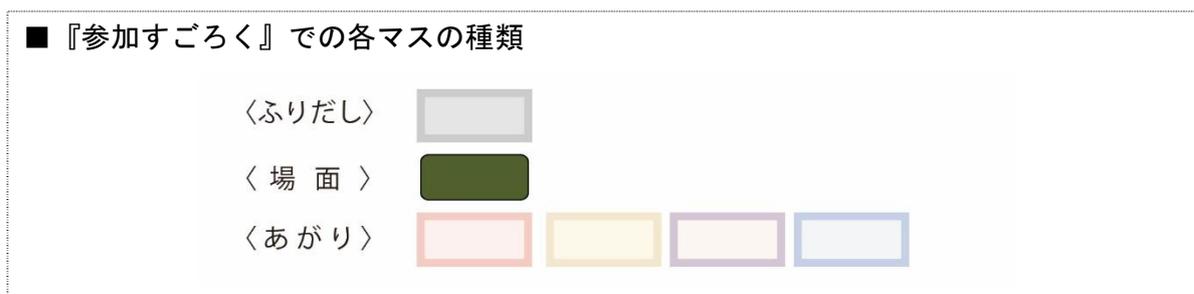
*インタビュー調査（45～54 ページ参照）から得られたデータの主たる分析対象者は、定年退職後に地域デビューしにくいとされる勤め人だった男性であり、グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）という質的分析手法（55～60 ページ参照）を用いて分析しました。また、ここでいう地域活動とは、地域の安全・安心づくりに向けた活動及び身近な道路や公園の維持管理活動などを想定したものです。

表 2-1 調査対象団体の一覧

	調査対象団体	所在地	本書の略称（よみ仮名）	活動主体	団体紹介ページ
安全・安心活動	東初石 1 丁目自治会 自主防犯パトロール隊	千葉県 流山市	東初石（ひがしはついし）	地縁型	65 ページ
	幸町 1 丁目防犯 パトロール隊	千葉県 千葉市美浜区	幸町（さいわいちょう）	地縁型	66 ページ
	亀戸 2 丁目団地 管理組合自治会	東京都 江東区	亀戸（かめいど）	地縁型	67 ページ
	足立区長門南部町会	東京都 足立区	長門南部（ながとなんぶ）	地縁型	68 ページ
	近文あい運動	北海道 旭川市	近文（ちかぶみ）	テーマ型	69 ページ
維持管理活動	グループけやき	東京都 板橋区	けやき	テーマ型	70 ページ
	青葉美しが丘 中部地区アセス委員会	神奈川県 横浜市青葉区	美しが丘（うつくしがおか）	地縁型	71 ページ
	さつき台自治会 公園愛護会	神奈川県 横浜市港南区	さつき台（さつきだい）	地縁型	72 ページ
	高麗川ふるさとの会	埼玉県 坂戸市	高麗川（こまがわ）	テーマ型	73 ページ
	戸畑区老人クラブ 友親会	福岡県 北九州市戸畑区	戸畑区（とばたく）	テーマ型	74 ページ

1 『参加すごろく』から『処方せん』を探す

- 19 ページにある図 2-2 が、高齢者の地域活動における〈場面〉と、それぞれの〈場面〉同士の関係性を表した『参加すごろく』になります。
- 高齢者が、ある地域活動団体と関わり始める〈ふりだし〉から、地域活動との関わり方が一定の形に収まる〈あがり〉となるまでには、9つの〈場面〉があります。



- 地域活動を知ったり興味を持ち始めたりする〈ふりだし〉の時点では「地域とのつながりの状況」が大きく影響しますが、地域活動との関わりの〈場面〉が展開していくと、最終的には「習慣的な活動参加」「限定的な活動参加」「活動からの離脱」「地域活動不参加」の4つの〈あがり〉のいずれかに到達することとなります。
- なお、一度「習慣的な活動参加」に到達した方でも、体力の低下などによって地域活動との関わり方が変化し、「限定的な活動参加」などの別の〈あがり〉に移動することがあります。
- また、仮に一度「地域活動不参加」などに到達した方でも、新しい活動に出会うことができれば、今度はその新しい活動との関わりとして『参加すごろく』をたどることがあります。

■高齢者が参加・離脱・不参加に至るまでの『参加すごろく』

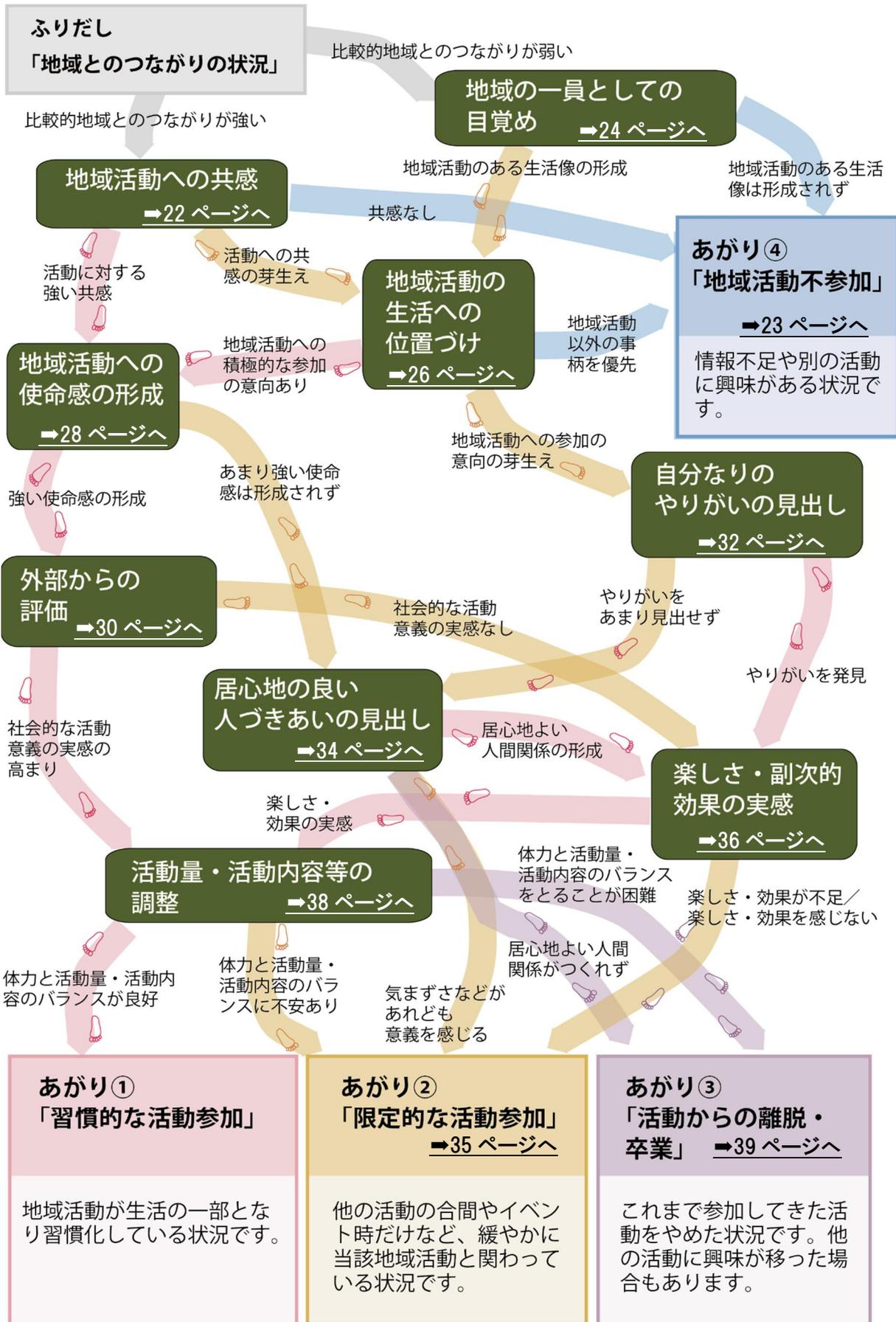


図 2-1 高齢者の地域活動における『参加すごろく』

(ページ番号は『処方せん』の掲載ページ)

2 「つぶやき」から『処方せん』を探す

- 高齢者の地域活動における『参加すごろく』では、〈場面〉同士の関係性を示しましたが、読者の皆さんが地域の高齢の方々に、地域活動の参加を働きかけていきたいときに、その人がどの〈場面〉に相当するかが明確にわかるときばかりではないでしょう。
- そんな時は、図 2-3 にある地域で暮らす高齢者の「つぶやき」の例から、地域活動の参加を働きかけていきたい人の現状に近い人物像を探してみて、該当する『処方せん』に進んでください。

「既に他の地域活動にも参加していますが、この活動との関わりはまだありません」
「定年退職を迎える前から、頻りに町内会や地域行事に参加してきましたが、地域活動への関心はそれほどありませんでした」

⇒22 ページへ

「現役時代、地域活動は妻に任せきりでした」

「退職を機に、娘が住む町に引っ越してきました」

⇒24 ページへ

「既に活動に参加している人から話をきいて、面白そうだと思いました」

「生活にメリハリをつけるために活動に参加してみようと思いました」

⇒26 ページへ

「パトロール活動で地域を安全にしたいと思いました」

「地域の人々のために何かすることは大事なことだと思い始めています」

⇒28 ページへ

「自分たちの活動で、地域の環境を良くしていきたいので、これからも活動に参加したいと考えています」

⇒30 ページへ

「パトロールで歩くと、健康に良さそうなので参加しています」

「地域の役に立ちそうな活動なので参加します」

⇒32 ページへ

「誘われたから何となく参加しています」

「地域での知り合いが増えると思って参加しています」

⇒34 ページへ

「活動の目に見える成果がないのでもどかしさを感じています」

「活動へのやりがいは、何となくでしか感じていません」

⇒36 ページへ

「地域住民からの感謝を受けて、健康であるうちは参加したいと思っています」

「活動は楽しいので体力的に大変でなければ、今後も続けられそうです」

⇒38 ページへ

図 2-2 各『処方せん』に相当する「つぶやき」

3 地域活動参加の『処方せん』

- 高齢者が地域活動の新たな担い手として参加を促していくためには、活動の頻度や負荷に対して高齢者自身の気力や体力のバランスがとれるように、団体が多様な形の参加を受け入れたり、地域特性に応じて活動内容を工夫したりすることが重要です。
- 参加促進手法の『処方せん』は、高齢者が地域活動で相対する9つの〈場面〉ごとに作成しており、『処方せん』の概要・①次の〈場面〉に進む〈要因〉・②次の〈場面〉に進むための働きかけ例を掲載しています。

■参加促進手法の『処方せん』の見方

『処方せん』の概要

- ・地域活動との関わりの深さによって、それぞれのメンバーがどの〈場面〉に当てはまるかが異なります。その〈場面〉に該当する方に対して、『処方せん』にある働きかけを実践すると、活動への参加を促すことが期待できます。
- ・また、それぞれの『処方せん』が高齢者の地域活動における『参加すごろく』のどの場面に位置しているかについても図示しています。

<処方せん日>地域の一員としての目覚め
『新たな参加者に地域活動のある生活像をもってもらうには?』

○現在の地域とのつながりが比較的弱い人は、生活の中で地域活動に参加する暮らし方があることへの気づきが、地域活動との関わり方の最初のステップとなります。

例え「せん」な人

「現役時代、地域活動は妻に任せきりでした」
Cさん

「退職を機に、娘が住む町に引っ越してきました」
Dさん

【前後の場面との位置関係】
(高齢者の地域活動における『参加すごろく』の全体像については19ページをご覧ください)

ふりだし「地域とのつながりの状況」

比較的弱い → 地域活動への共感 (22ページ)

比較的強い → 地域活動のある生活像の形成 → 地域活動のある生活像 (26ページ)

地域の一員としての目覚め

地域活動のある生活像は形成されず → 地域活動のある生活像 (23ページ)

あがり「地域活動不参加」 (23ページ)

①次の〈場面〉に進む〈要因〉

○「地域の一員としての目覚め」から次の〈場面〉を決める〈要因〉として、次の4つが挙げられます。これらが順調に満たされていくと「地域活動のある生活像の形成」につながります。一方で、これらが上手く満たされないと「地域活動のある生活像は形成されず」となります。

講習等での意識づけ: 地域や退職前に所属していた会社での研修会や、退職後に入学した生涯学校の講習などが地域に目を向けるきっかけとなっていることもあります。	地域活動との関わり方の気づき: 地域とのつながりが比較的弱い方は、退職後の生活の中で地域活動が生活の一部になると気づくことから始まります。そのためには、積極的に接点を見つけて近隣で声をかけあう関係が生まれることが大切です。	既存の地域活動の印象: 詳しい状況は知らなくてもホームページや活動の様子から、地域活動に対して良い印象を持っている方は、新たに参加する際のハードルも低いようです。
退職後生活への不安: 定年退職後は大きく生活が変わります。地域とのつながりが弱い方は、退職後の地域で暮らし続けるイメージを具体的に持つことが難しいため、漠然とした不安や、行くところがなく家にこもりがちになること、健康維持への不安などを抱いていることがあります。	家にももっていても仕方ないという思い: 定年退職後は大きく生活が変わります。地域とのつながりが比較的弱い方は、退職後の地域で暮らし続けるイメージを具体的に持つことが難しいため、漠然とした不安や、行くところがなく家にこもりがちになること、健康維持への不安などを抱いていることがあります。	

○地域活動のある生活像を上手くもってもらえた場合 ⇒ 26ページへ
○地域活動のある生活像をもってもらえなかった場合 ⇒ 「地域活動不参加」となります 23ページへ

②地域活動のある生活像をもってもらうための働きかけ例

【地域活動団体のリーダーやメンバーができること】

■地域活動への参加が仲間づくりのきっかけ、体力維持につながることをへの気づきのための働きかけ

- ・仕事や地域外での活動などが忙しく、今まで地域とのつながりがなかった人に、些細なことでもきっかけにして積極的にコミュニケーションをとってみましょう。
- 退職後の生きがい探しをしている方への地域活動参加のきっかけづくりのための働きかけ
- ・町内会の会合などで団体の活動を紹介してみたり、町内の掲示や広報などを活用して活動メンバーを募集してみたりしてみましょう。
- ・団体の活動の充実感や成果などが伝わるPR活動を行ってみましょう。

【団体の支援者ができること】

■地域活動への参加が仲間づくりのきっかけ、体力維持につながることをへの気づきのための働きかけ

- ・高齢者が集まる場で、地域活動への参加の重要性や、地域活動への参加が生きがいや地域での仲間づくりのきっかけになることを伝えてみましょう。
- ・ボランティアなどに興味のある方などを集めて、地域活動への参加による効果を紹介する講習会を開催してみましょう。
- 退職後の生きがい探しをしている方への地域活動参加のきっかけづくりのための働きかけ
- ・地域活動やボランティア活動に参加することで行政サービスなどが受けやすくなる取組みなどを行ってみましょう。

公団の掲示板での講演の魅力紹介や団体の活動内容・活動日などの情報提供(さつき台)

地区の広報などを活用しての団体の活動内容の紹介(幸町)

健康寿命延伸ワークショップによる地域活動と高齢者の健康について意見交換(愛媛県新居浜市泉川校区連合自治会)
【出典:高齢者が生き生きと暮らせる街づくりの手引き(建築研究所 No.159号)】

①次の〈場面〉に進む〈要因〉

- ・各〈場面〉での次に進む〈場面〉を決める〈要因〉を解説しています。

②次の〈場面〉に進むための働きかけ例

- ・①にある〈要因〉を踏まえて、インタビュー調査での結果や、本手引き作成検討委員会での知見から、【地域活動団体のリーダーやメンバーができること】【団体の支援者ができること】といった処方例を整理しました。

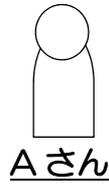
図 2-3 『処方せん』の見方

『新たな参加者に共感をもってもらうためには？』

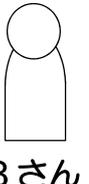
○既に地域とのつながりが比較的強い人は、地域内の知り合いなどから団体の存在を教えられ、活動に共感を持つことが活動参加への最初のステップとなります。

例えばこんな人

「既に他の地域活動にも参加していますが、地域活動との関わりはまだまだありません」

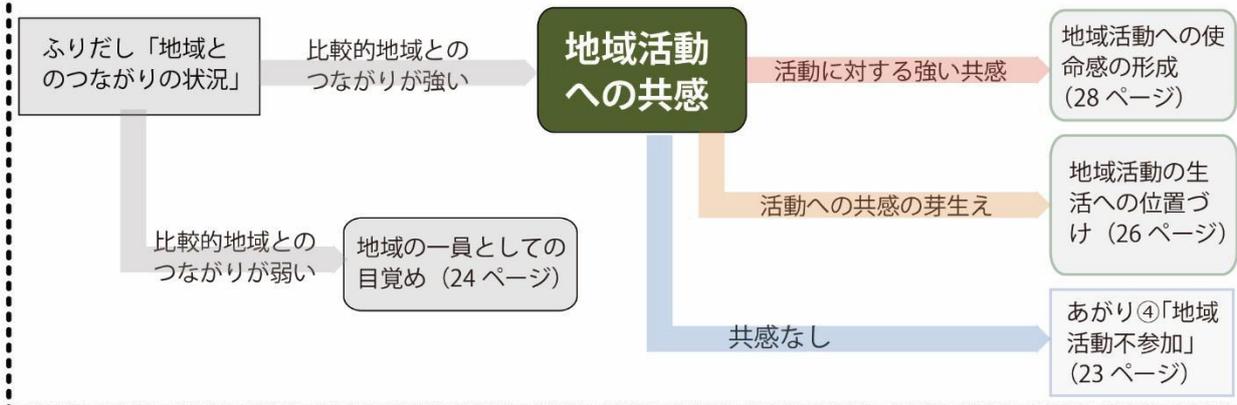


「定年退職を迎える前から、頻繁に町内会や地域行事に参加してきましたが、地域活動への関心はそれほどありませんでした」



【前後の場面との位置関係】

(高齢者の地域活動における『参加すどころ』の全体像については19ページをご覧ください)



①次の〈場面〉に進む〈要因〉

○「地域活動への共感」から次の〈場面〉を決める〈要因〉として、次の4つが挙げられます。これらが順調に満たされていくと**強い共感**を得ることができます。一方で、これらが上手く満たされないと**共感なし**となります。また、これらすべてが満たされなくても、部分的に満たされ始めると**共感の芽生え**へとつながります。

既活動者の知り合い：

地域内に知り合いが多い方は、地域活動に参加するきっかけが様々な方向から転がり込んでくるようです。また、地域内に知り合いが多い方ほど、地域環境への関心が強いことが期待できますので、活動内容への共感やメンバー同士の理解を持ちやすい可能性があります。

活動への勧誘：

既に活動に参加しているメンバーからの勧誘は、活動に参加する主なきっかけの一つです。勧誘を受けて、参加するかどうかは個人の意思によりますが、まず声をかけてみるのが新たな参加者の獲得の第一歩となります。

声を掛けた人の信用：

地域活動に参加するにあたって、不安なく活動に参加できると感じてもらうことが重要です。声をかけた方に対する信頼や信用があるほど一緒に活動しようと思う方も多いようです。

当該活動への関心：

自分が暮らす地域環境に関心を抱く方は多いですが、地域課題の当事者や本人からの直接的な働きかけで、課題への共通認識がより深まることがあります。

○活動への共感が上手く得られた場合 ⇒ 28 ページへ

○活動への共感が生まれ始めた場合 ⇒ 26 ページへ

○活動への共感が得られなかった場合 ⇒ 「地域活動不参加」となります。下記の囲みをご覧ください。

②共感をもってもらうための働きかけ例

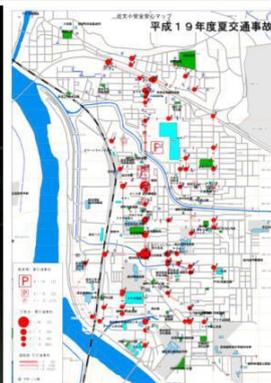
【地域活動団体のリーダーやメンバーができること】

■地域環境を守ることの啓発のための働きかけ

- ・地域で何か問題が起きたときや地域環境に関連する全国的なニュースがあった時に、既に行動を起こしている地域や近隣の自治体の取組みを参考に、あなたの地域でも行動を起こしてみよう。

■団体の存在や活動内容を知るための働きかけ

- ・新しい活動を始めるときは、まずは知り合いを巻き込むところから始めよう。
- ・団体の参加者の中で、みんなからの人望が厚い人、知り合いが多い人に、新たな参加者への声掛けをお願いしてみよう。
- ・高齢者が集まる場でのネットワークを活用して、新たな参加者を探してみよう。
- ・犬の散歩仲間や地域のイベントなどでよく見かける人にも声をかけてみよう。



くらがり調査や交通事故調査による地域の安全性の実態把握（近文）

【団体の支援者ができること】

■地域環境を守ることの啓発のための働きかけ

- ・地域行事などで、地域の課題や団体の活躍を紹介しましょう。
- ・地域環境の実態を調査して、地域の課題を住民と共有する機会を設けてみましょう。

■団体の存在や活動内容を知るための働きかけ

- ・新たにまちづくりに関わる活動をしたいと考えている方々に、団体の情報提供してみよう。

あがり④

「地域活動不参加」とは…

『参加すごろく』の最初のあがりである「地域活動不参加」とは、地域とのつながりが浅く、地域の情報が十分に伝わっていないことと、活動テーマそのものに興味を持てなかったことが考えられます。

地域との関わりを持たないまま定年退職を迎えた場合などでは、すぐに地域活動に係ることは難しい場合があります。こうした場合でも、高齢化しても近隣で活動できる場があることは重要だということを理解してもらい、生涯大学校などで興味を持ってそうなテーマを見つけ、まずは自治会等地域の大きな組織に加入し、できるところから少しずつ地域との関わりを積み重ねていくことが大切です。



千葉県生涯大学校・京葉学園



活動の様子

出典：<http://chiba-shougaidai.jp/school/keiyou.html>

『新たな参加者に地域活動のある生活像をもってもらうには？』

○現在の地域とのつながりが比較的弱い人は、生活の中で地域活動に参加する暮らし方があることへの気づきが、地域活動との関わりの最初のステップとなります。

例えばこんな人

「現役時代、地域活動は妻に任せきりでした」



Cさん

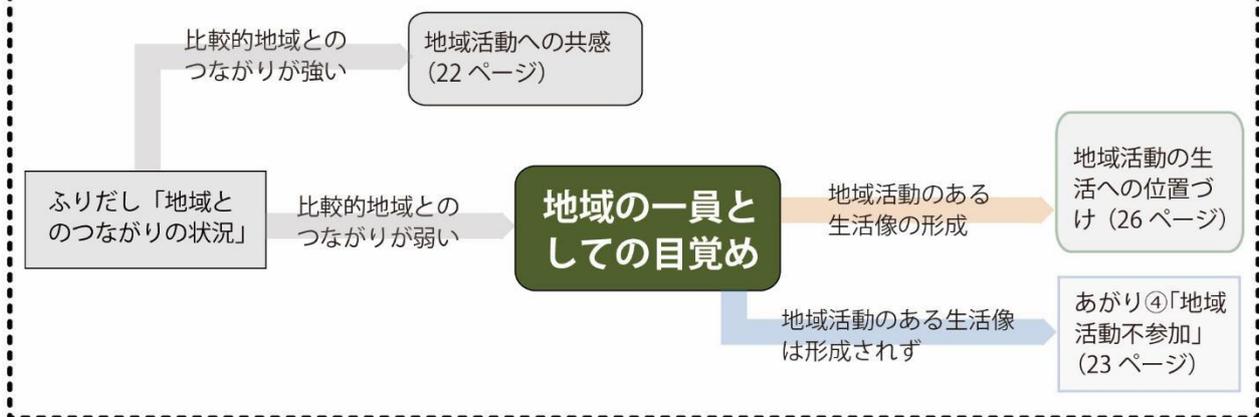
「退職を機に、娘が住む町に引っ越してきました」



Dさん

【前後の場面との位置関係】

(高齢者の地域活動における『参加すどころ』の全体像については19ページをご覧ください)



①次の〈場面〉に進む〈要因〉

○「地域の一員としての目覚め」から次の〈場面〉を決める〈要因〉として、次の4つが挙げられます。これらが順調に満たされていくと「地域活動のある生活像の形成」につながります。一方で、これらが上手く満たされないと「地域活動のある生活像は形成されず」となります。

講習等での意識づけ：

地域や退職前に所属していた会社での研修会や、退職後に入学した生涯学校の講習などが地域に目を向けるきっかけとなっていることもあります。

地域活動との関わりの気づき：

地域とのつながりが比較的弱い方は、退職後の生活の中で地域活動が生活の一部になると気づくことから始まります。そのためには、積極的に接点を見つけて近隣で声をかけあう関係が生まれることが大切です。

既存の地域活動の印象：

詳しい状況は知らなくてもホームページや活動の様子から、地域活動に対して良い印象を持っている方は、新たに参加する際のハードルも低いようです。

退職後生活への不安：

定年退職後は大きく生活が変わります。地域とのつながりが弱い方は、退職後の地域で暮らし続けるイメージを具体的に持つことが難しいため、漠然とした不安や、行くところがなく家にこもりがちになること、健康維持への不安などを抱いていることがあります。

家にこもっていても仕方ないという思い：

定年退職後は大きく生活が変わります。地域とのつながりが比較的弱い方は、退職後の地域で暮らし続けるイメージを具体的に持つことが難しいため、漠然とした不安や、行くところがなく家にこもりがちになること、健康維持への不安などを抱いていることがあります。

○地域活動のある生活像を上手くもってもらえた場合 ⇒ 26 ページへ

○地域活動のある生活像をもってもらえなかった場合⇒「地域活動不参加」となります
23 ページへ

②地域活動のある生活像をもってもらうための働きかけ例

【地域活動団体のリーダーやメンバーができること】

■地域活動への参加が仲間づくりのきっかけ、体力維持につながることに気づきのための働きかけ

- ・仕事や地域外での活動などが忙しく、今まで地域とのつながりがなかった人に、些細なことでもきっかけにして積極的にコミュニケーションをとってみましょう。

■退職後の生きがい探しをしている方への地域活動参加のきっかけづくりのための働きかけ

- ・町内会の会合などで団体の活動を紹介してみたり、町内の掲示や広報などを活用して活動メンバーを募集してみたりしてみましょう。
- ・団体の活動の充実感や成果などが伝わる PR 活動を行ってみましょう。



公園の掲示板での講演の魅力紹介や団体の活動内容・活動日などの情報提供(さつき台)

【団体の支援者ができること】

■地域活動への参加が仲間づくりのきっかけ、体力維持につながることに気づきのための働きかけ

- ・高齢者が集まる場で、地域活動への参加の重要性や、地域活動への参加が生きがいや地域での仲間づくりのきっかけになることを伝えてみましょう。
- ・ボランティアなどに興味のある方などを集めて、地域活動への参加による効果を紹介する講習会開催してみましょう。

■退職後の生きがい探しをしている方への地域活動参加のきっかけづくりのための働きかけ

- ・地域活動やボランティア活動に参加することで行政サービスなどが受けやすくなる取組みなどを行ってみましょう。



地区の広報などを活用しての団体の活動内容の紹介(幸町)



健康寿命延伸ワークショップによる地域活動と高齢者の健康について意見交換(愛媛県新居浜市泉川校区連合自治会)

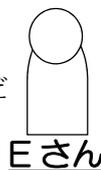
【出典:高齢者が生き生きと暮らせる街づくりの手引き(建築研究資料 No. 159号)】

『参加者に参加の意義を見出してもらうためには？』

○地域活動への共感が芽生え始めた人や地域活動がある生活像を持ち始めた人は、自分に合った参加の意義を見出すことが継続的な参加の第一歩となります。

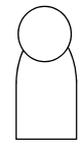
例えばこんな人

「既に活動に参加している人から話をきいて、面白そうだと思います」



Eさん

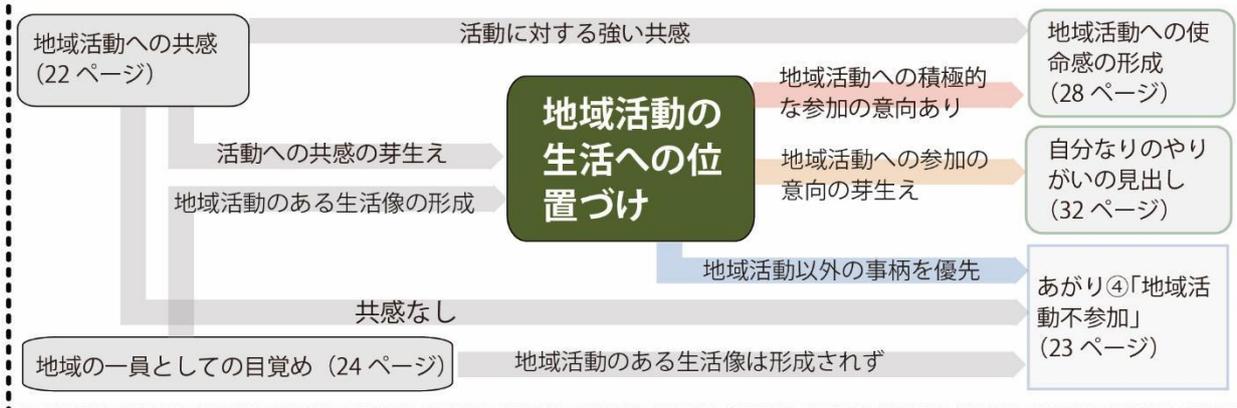
「生活にメリハリをつけるために活動に参加してみようと思いました」



Fさん

【前後の場面との位置関係】

(高齢者の地域活動における『参加すごろく』の全体像については19ページをご覧ください)



①次の〈場面〉に進む〈要因〉

○「退職後生活における地域活動の位置づけ」から次の〈場面〉を決める〈要因〉として、次の6つが挙げられます。これらが順調に満たされていくと「**地域活動への積極的な参加の意向あり**」となります。一方で、これらが上手く満たされないと「**地域活動以外の事柄を優先**」となります。また、これらすべてが満たされなくても、部分的に満たされると「**地域活動への参加の意向の芽生え**」へとつながります。

社会に役立ちたい思い：

年金生活に入ること、何らかの社会貢献活動への協力意識や定年退職後も何かしら社会に対する関わりを持ちたいと考えている方もいます。

活動内容の魅力：

活動の内容が魅力的であるほど、活動に関わり参加しようという気持ちの芽生えにつながります。また地域活動に多様な取り組みがあることも興味の門戸を広げます。

趣味活動との両立：

地域課題に気づいた時にその問題に自身に関わるようになるかどうかについて、その気持ちの持ちようは、人によって様々あるようです。「こうあるべき」とは思わないことも大切です。

活動内容の柔軟性：

地域活動に参加してもらうためには、趣味活動などの、地域活動以外の日常的な活動とスケジュール的にも両立ができる必要があるようです。

不安からの脱却：

健康状態や私生活面などで悩みを抱えている場合でも、活動に参加して充実した時間を過ごすことで、不安を時間が解消されることにつながります。

自身の健康維持意識：

健康意識や趣味活動を希求している人の中には、その目的にあった活動には協力してあげることがあります。特に身近な機会をとらえた地域活動は健康維持のためには効果的な方法です。

○自分に合う参加の意義を上手く見出せた場合 ⇒ 28 ページへ

○自分に合う参加の意義が芽生え始めた場合 ⇒ 32 ページへ

○自分に合う参加の意義を見出せなかった場合 ⇒ 「地域活動不参加」となります 23 ページへ

②参加の意義を見出してもらうための働きかけ例

【地域活動団体のリーダーやメンバーができること】

■それぞれのメンバーのライフスタイルに合わせた参加方法の見出しのための働きかけ

- ・団体の人数を多くして、全員が毎回の活動に参加できなくても、活動が継続できる体制を整えましょう。
- ・メンバーごとの興味に合わせて参加できるように、様々な柔軟性のある活動内容を用意してみたり、周囲の住民と協働して多様な活動へ展開できたりする雰囲気をつくってみましょう。

■継続的な参加による良さの共有のための働きかけ

- ・団体内の交流会を開催したり、少人数でのコミュニケーションの場を設けたりするなどして、メンバーが不安を打ち明けたり、アドバイスし合えたりする機会をつくってみましょう。

【団体の支援者ができること】

■それぞれのメンバーのライフスタイルに合わせた参加方法の見出しのための働きかけ

- ・活動内容や参加方法のレポーターを提案し、参加様式を多様化するサポートをする。

■継続的な参加による良さの共有のための働きかけ

- ・地域活動やボランティア活動に継続的に参加することで行政サービスなどが優遇される取組みなどを行ってみましょう。
- ・地域活動に参加し始めて間もない方を対象に、講習会や、長く地域活動に参加している方との交流会などを開催して、活動参加による高齢者自身に対する効果を伝えてみましょう。



ビオトープの清掃管理や自然観察会などを開催(高麗川)

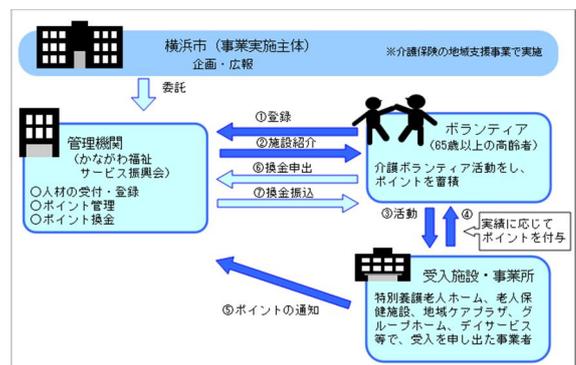
出典：<http://komagawakanri.blog.fc2.com/blog-date-201401.html>



メンバーの都合に合わせたスケジュールの調整(幸町)



清掃活動場所である公園でメンバーが主体的に開催している寄せ植え講習会(けやき)



横浜市シニアボランティア制度の仕組み

* 所定の研修を修了し、介護支援ボランティア登録をした65歳以上の横浜市民が、ボランティア活動を行うとポイントが付与され、このポイントを貯めて一定ポイント以上になると、現金に換金または寄付することができる仕組み

出典：<https://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/riyousha/manabitai/volunteer/6.html>

『参加者に活動に対する使命感をもってもらうためには？』

○地域活動に強い共感をもった人や、地域に意義を見出して活動に参加している人が、活動に対する使命感を持つと、それが非常に強力な参加へのモチベーションを生み出すことにつながります。

例えばこんな人

「パトロール活動で地域を安全にしたいと思いました」

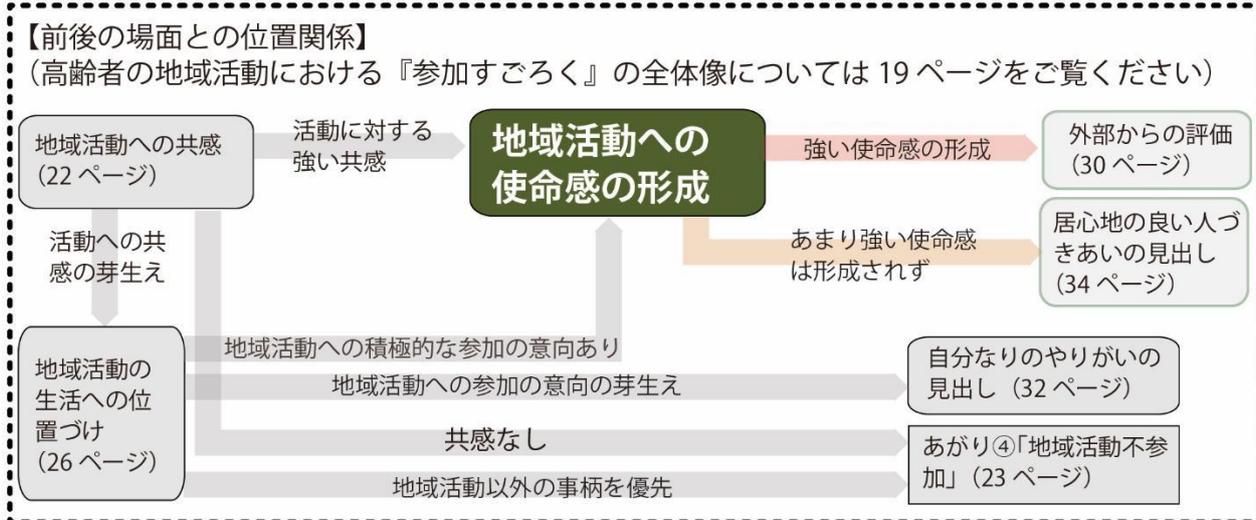


Gさん

「地域の人々のために何かすることは大事なことだと思いはじめています」



Hさん



①次の〈場面〉に進む〈要因〉

○「地域活動に対する使命感の形成」から次の〈場面〉を決める〈要因〉として、次の3つが挙げられます。これらが順調に満たされていくと**強い使命感の形成**につながります。一方で、これらが上手く満たされないと**あまり強い使命感は形成されず**となります。

活動の当事者意識：

地域活動への参加を通して、地域環境を守る意識や、地域の課題を自身で解決する意識、また地域活動を担う団体の存在の重要性などを意識することが、当事者意識を持ち始めることにつながります。

役員等の任命：

使命感の形成にあたっての主なきっかけの一つとして、団体内での役員等を務めることがあるようです。役割を担うことで、地域環境のより詳細な課題に関心を抱いたり、メンバー同士の間人間関係などに気を配るようになるきっかけとなります。

活動を担う使命感：

団体内の一員であるという意識や自身で課題解決を目指そうとを強く持ち始めることが、活動を担うという使命感につながっていきます。そして、その使命感が最終的には、地域環境を守っているという強い意識にもつながります。

②活動に対する使命感をもってもらうための働きかけ例

【地域活動団体のリーダーやメンバーができること】

■地域環境の守る上での自分たちの役割の重要さの気づきのための働きかけ

- ・定期的に団体の活動報告会を開催して、日々の活動の成果や新たな地域の課題などについて情報共有する機会を設けてみましょう。
- ・地域のイベントなどに合わせて通常の活動とは違った活動も開催してみましょう。
- ・地域内の活動によって環境が改善された場所を認識してもらい、取組みの成果を理解してもらいましょう。



見守り活動のネットワーク会議での情報共有（近文）

【団体の支援者ができること】

■地域環境の守る上での自分たちの役割の重要さの気づきのための働きかけ

- ・活動時に使用する用具などを提供して、団体の一体感を高め、地域の環境を守っている役割を担っていることを認識してもらいましょう。
- ・他の地域活動団体や地元住民などとの交流の機会を設けてみましょう。



自治体が提供している帽子（左：戸畑区）や活動着（右：東初石）



住民による道路緑地帯の雑草管理（美しが丘）
* 行政が年2回行う草刈りの合間に地域住民総出で草刈りを行います。草刈り道具は様々な助成を得て少しずつ充実させてきました。



通常のパトロール活動とは異なる防犯訓練の実施（亀戸）



清掃の活動場所の公園での地域のコンサートイベントの開催（けやき）

『参加者に社会的な活動意義を実感してもらうためには？』

○地域活動に対して強い使命感を持っている人は、地域の方々にも活動の重要性を理解してほしいと感じています。地域の方々からの活動に対する理解・評価が何かしらの形で表れることは大切なことと言えます。

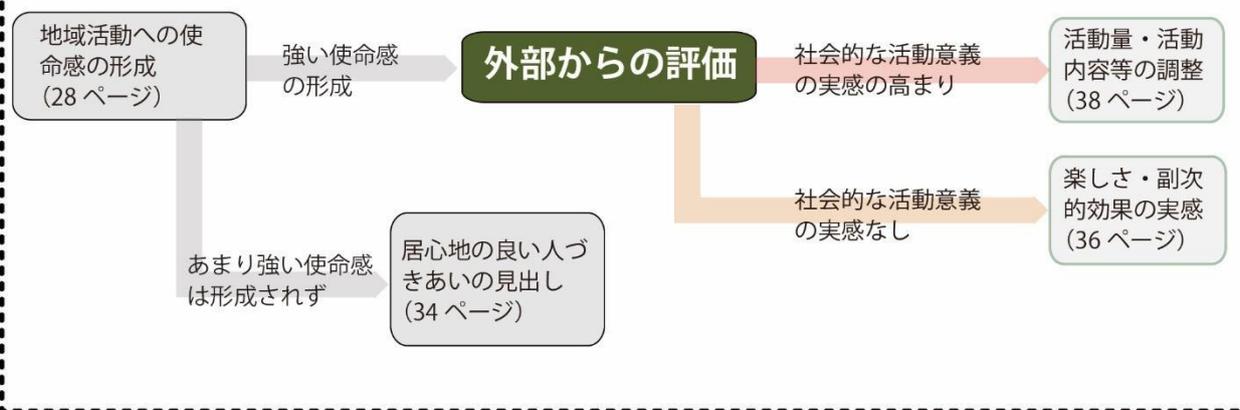
例えばこんな人

「自分たちの活動で、地域の環境を良くしていきたいので、これからも活動に参加したいと考えています」



【前後の場面との位置関係】

(高齢者の地域活動における『参加すどころ』の全体像については19ページをご覧ください)



①次の〈場面〉に進む〈要因〉

○「外部からの評価」から次の〈場面〉を決める〈要因〉として、次の3つが挙げられます。これらが順調に満たされていくと「社会的な活動意義の実感の高まり」につながります。一方で、これらが上手く満たされないと「社会的な活動意義の実感なし」となってしまいます。

活動の第三者評価：

活動団体の外部から評価されたり、表彰を受けたりすることで自分たちの活動が評価されることは、団体の活躍が期待されていることを実感できます。客観的に認められることで、活動の必要性や重要性も再認識することにつながります。

マスコミ報道：

外部からの評価の中でも、報道機関や市報や県報など多くの人の目に触れる広報媒体によって取り上げられることは、団体のメンバー自身や地域全体への影響度が強いようです。そして、周囲から注目されているという意識を持つと、より積極的に活動に参加しようという意欲が高まっていきます。

活動の新たな展開：

団体の外部と考え方を共有することで、それが新たな交流や活動へのつながりを生み、これまで活動にはない新たな地域環境の維持・向上のための活動に展開することがあります。具体的には、市の活動団体の連絡協議会等の発足です。こうした活動に係ることで、より地域活動に熱心に取り組むようになることもあります。

②活動団体の社会的な活動意義を実感してもらうための働きかけ例

【地域活動団体のリーダーやメンバーができること】

■団体外部の人々からの期待や評価、感謝の実感のための働きかけ

- ・他の団体や自治体、警察署などの外部の方々と交流する機会を設け、客観的な意見を踏まえて自分たちの取組みを振り返ってみましょう。

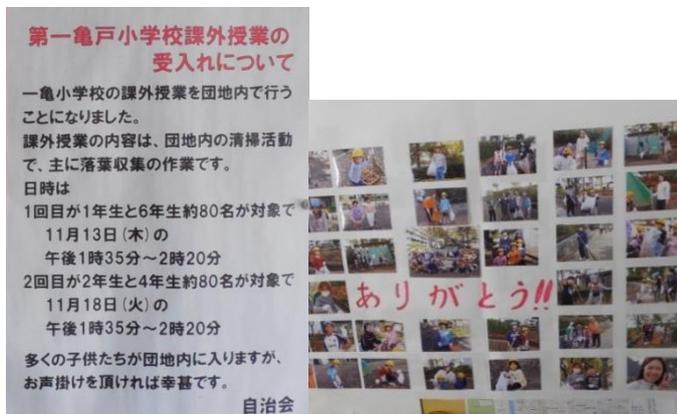
【団体の支援者ができること】

■団体外部の人々からの期待や評価、感謝の実感のための働きかけ

- ・団体の活動を評価し、表彰や活動成果の取りまとめなどの明確な形で、評価を団体に伝えてみましょう。
- ・地方新聞や地元の広報誌などで団体の活躍を取り上げてみましょう。
- ・周囲の住民などととともに、活動に対する感謝をメンバーに伝える会を開催してみましょう。



自治体と共同で作成している安全・安心まちづくりのマニュアル（亀戸・長門南部）



小学校の課外活動の受け入れと、小学生からの感謝を込めた写真（亀戸）



県民だよりによる団体の活躍の記事掲載（東初石）



行政機関からの活動団体への表彰状（戸畑区）



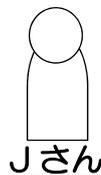
見守り活動参加者への感謝の昼食会（近文）

『参加者に自分らしいやりがいを見出してもらうためには？』

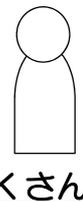
- 個人的なテーマや目的の実現を重視して活動に参加している人や、活動の必要性や参加の使命感の意識があまり強くない人は、団体内での自分らしさの活かし方に気づくことで、継続的な参加への意識が高まります。

例えばこんな人

「パトロールで歩くと、健康に良さそうなので参加しています」

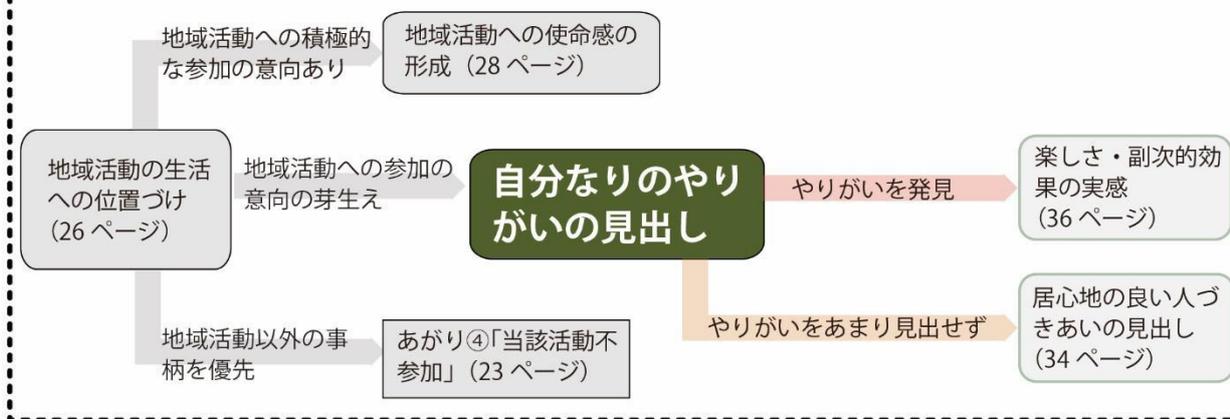


「地域の役に立ちそうな活動なので参加します」



【前後の場面との位置関係】

(高齢者の地域活動における『参加すどころ』の全体像については19ページをご覧ください)



①次の〈場面〉に進む〈要因〉

- 「自分なりのやりがいの見出し」から次の〈場面〉を決める〈要因〉として、次の4つが挙げられます。これらが順調に満たされていくと「やりがいを発見」につながります。一方で、これらが上手く満たされないと「やりがいをあまり見出せず」となってしまいます。

経験・能力の活用：

自分の職歴・学歴での経験や、趣味・特技などの能力を団体内で活かすことで、自分ならではの役割を見つけることとなり、活動の達成感や満足感の見出しにもつながっていきます。

求められる役割：

周囲から期待されている役割を認識することで、団体内での自分の存在意義を実感し、より積極的な参加の意識を持つことが出来るようになります。

生活における活力：

活動に参加することは、そのまま外出頻度が増えたり、家族以外の方々とコミュニケーションを取る機会が増えることにつながります。こうした活動への参加が日常生活のメリハリにつながっていることに気づいてもらうことも重要です。

活動成果の実感：

活動に継続的に参加するモチベーションの一つがやりがいです。極めて個人的な感情ですが、参加動機を構成する要素としては重要です。その内容は人により異なり、他者からの評価や感謝の場合もあれば、個人的な能力の表出や達成感が大事な場合もあります。

○自分らしいやりがいを上手に見出せた場合 ⇒ 36 ページへ

○自分らしいやりがいを見出せなかった場合 ⇒ 34 ページへ

②自分らしいやりがいを見出してもらうための働きかけ例

【地域活動団体のリーダーやメンバーができること】

■自分なりのやりがいの発見のための働きかけ

- ・団体として困っていることを相談してみて、他のメンバーの気づきを活動の要素に取り入れるとともに、そのメンバーの能力を最大限に発揮してもらいましょう。
- ・活動に対して感じる問題点やアイデアを聞いてみて、団体内の課題を解決しつつ、活動の新たな展開を模索してみましょう。

■それぞれのメンバーの経験や能力を活かした役割の見出しのための働きかけ

- ・メンバーの過去の経験などをヒントにそれぞれの適性に合った役割を担ってもらいましょう。

【団体の支援者ができること】

■自分なりのやりがいの発見のための働きかけ

- ・メンバーに技術的な講習会などを行うとともに、認定証を発行して、自信をもって団体内での特別な役割を担ってもらうきっかけづくりを試みましょう。

■それぞれのメンバーの経験や能力を活かした役割の見出しのための働きかけ

- ・他の団体と比較して、活動団体の活動で不足している要素を抽出するとともに、リーダーや主要メンバーの相談相手となって、活動の不足要素を補える人材探しを支援してみましょう。



メンバーの専門的な技術を生かした清掃活動の役割分担（けやき）



改修前

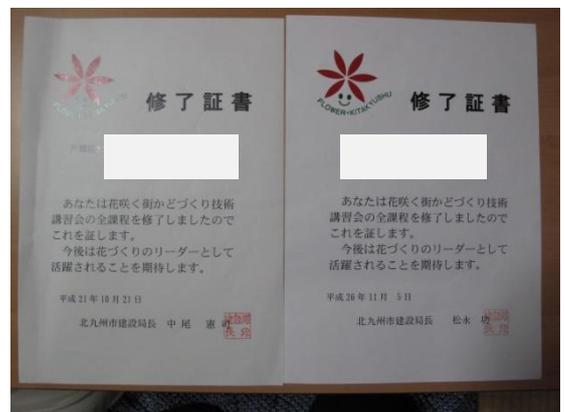


改修後

多様な参加を認める事例：日曜大工仕事で和室を洋室に改装した事例（旭川市大成地区）



メンバーの職業経験を活かしたニュースの作成（東初石）



自治体で発行している花づくりのリーダーの認定証（戸畑区）

『参加者に居心地の良い人間関係を形成してもらうためには？』

○活動における自分らしさを見出せていない人や、活動の使命感の意識があまり強くない人であっても、他の参加者とよい人間関係が形成できると、それが参加のモチベーションにつながっていきます。

例えばこんな人

「誘われたから何となく参加しています」



Lさん

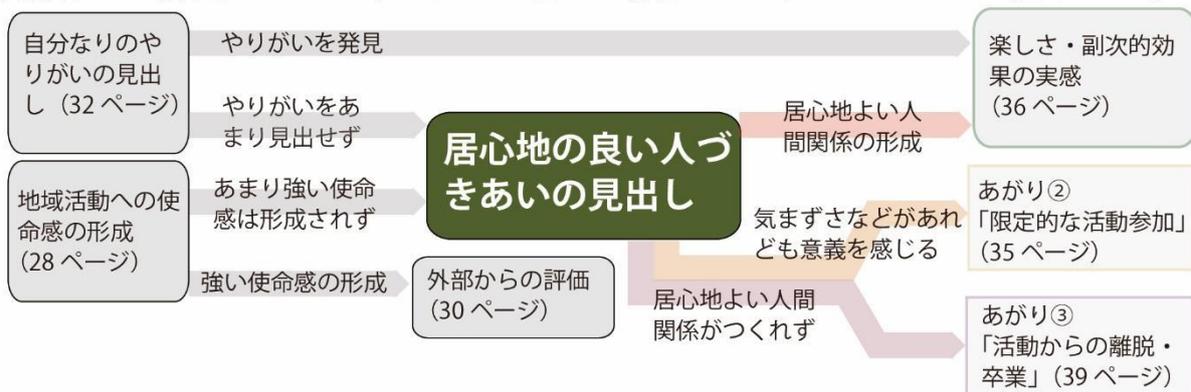
「地域での知り合いが増えると思って参加しています」



Mさん

【前後の場面との位置関係】

(高齢者の地域活動における『参加すごろく』の全体像については19ページをご覧ください)



①次の〈場面〉に進む〈要因〉

○「居心地よい人づきあいの見出し」から次の〈場面〉を決める〈要因〉として、次の5つが挙げられます。これらが順調に満たされていくと「居心地よい人間関係の形成」につながります。満たされないと「居心地よい人間関係がつかれず/気まずさなど」が生じます。

地域の課題等を語る人間関係：

活動に対する思いや地域の課題認識や将来像をともに話し合い、よくしていこうと思える、地域への思いを共感できる仲間関係が団体内に生まれることが大切です。

活動当初の気後れの解消：

活動参加は最初が肝心です。当初は知り合いが少なく心細く感じる方も多いものです。そうした方々の気後れや不安を早目に解消できるよう働きかけていくことが重要です。

参加の心得の共有：

楽しく活動している団体の中にはお互いが気持ちよく活動するためのルールやポリシーを持つことで、お互いの気遣いを大切にしているところもあります。

人づきあいの距離感：

メンバー同士が長く付き合っていくためには、常に親密な関係を気づく必要はなく、その時々のお互いの状況や相性などにも配慮しながら、適度な距離感で接することも大切です。

人づきあいの広がり：

活動を通して人づきあいが広がることもあります。人づきあいの広がりや狭がり、日常生活の張り合いにもつながります。一方で、人づきあいの深まりを実感することも居心地よい人間関係の形成のきっかけの一つとなります。

○居心地よい人間関係を上手くつくれた場合 ⇒ 36 ページへ

○居心地よい人間関係をつくれなかった場合 ⇒ 「限定的な活動参加」となります
このページ下部の囲みをご覧ください

②居心地よい人間関係を形成してもらうための働きかけ例

【地域活動団体のリーダーやメンバーができること】

■人づきあいの広がりの実感のための働きかけ

- ・団体全員が顔を合わせられる機会をつくっていきましょう。

■他のメンバーとの仲間意識形成のための働きかけ

- ・活動を振り返る機会をつくって、普段の活動に対する思いや今後の目標を共有しましょう。
- ・心地よい人間関係維持のため、組織の活動ポリシーを明確化し、参加者相互に共有することも安定した人間関係の維持に効果的です。
- ・活動がないときでも気軽に集まれる活動拠点の場所をつくっていきましょう。



活動後のお茶飲み会（東初石）

【団体の支援者ができること】

■人づきあいの広がりの実感のための働きかけ

- ・活動日に合わせた地域行事の開催などによって、多世代で交流できる機会をつくりましょう。

■他のメンバーとの仲間意識形成のための働きかけ

- ・他の団体におけるコミュニケーションのための取組みや、参加者の工夫を紹介したり、アドバイスしたりしていきましょう。



団体の防災訓練協力による若い世代との交流の機会（けやき）

あがり②

「限定的な活動参加」とは…

「限定的な活動参加」とは、自身の体力低下だけでなく参加者をとりまく家族環境の変化（介護や孫の世話など）により、皆と同じ活動がしにくくなる場合があります。また、他に組みたい活動が生じた場合などが考えられます。

こうした場合は周りの人々が、参加が限られてしまう人の事情を理解し、緩やかでも活動団体とのつながりを継続していけるようにすることが大切です。

また、今回、団体調査を行った中では、右図で示した東初石のほか、近文地区でも一度作った組織をいったん解散し、仕切り直した経緯がありました。全体的に参加状況が低下した時などは地域活動をいったん終了させて、新たな活動団体等を立上げるなど、時には思い切りの良さも必要だと思われます。

H15
流山市初の地域防犯組織
「ピースライト」発足

- ・任意団体
- ・当番制／負担感が大きかった
- ・女性を中心に男性が参加し難かった

H18
自治会主催の「自主防犯パトロール」として再発足

パトロール組織の変化（東初石）

『参加者に活動の楽しさや効果を実感してもらうためには？』

○団体内で居心地よい人間関係が形成できている人や、活動参加における自分らしさを見出した人、団体の存在意義を実感できていない人が楽しさや地域環境の変化、個人的な効果などを見出すことで、継続的に活動に参加してもらえることが期待されます。

例えばこんな人

「活動の目に見える成果がないのでもどかしさを感じています」



Nさん

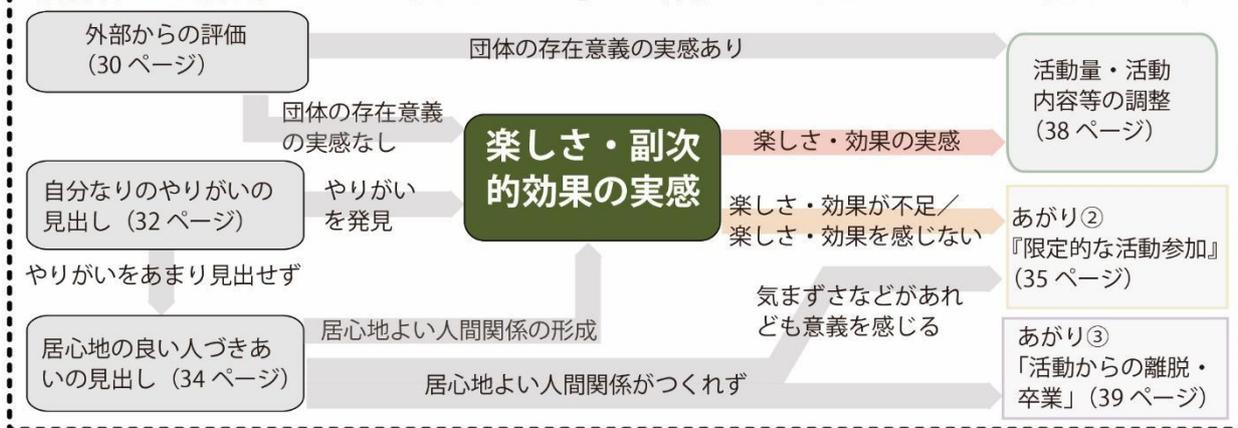
「活動へのやりがいはいは、何となくでしか感じていません」



Oさん

【前後の場面との位置関係】

(高齢者の地域活動における『参加すごろく』の全体像については19ページをご覧ください)



①次の〈場面〉に進む〈要因〉

○「楽しさ・副次的効果の実感」から次の〈場面〉を決める〈要因〉として、次の5つが挙げられます。これらが順調に満たされていくと**楽しさ・効果の実感**につながります。一方で、これらが上手く満たされないと**不満／他活動への興味大**となります。

活動による健康改善効果：

団体の成果に限らず、それぞれのメンバーの体力面の向上や健康の改善を認識することも継続的な活動への参加の成果といえます。中でも自身の健康数値を記録化することは、活動への参加の前後での違いが把握でき、その変化に対しての面白さや楽しさも発見できます。

活動組織内の信頼関係：

メンバー同士の信頼関係が強いと、それぞれが気兼ねなくコミュニケーションをとることができるので、活動の楽しみや効果をより高めることにつながります。

自然に生まれる会話

(コミュニケーション)：

パトロール活動や清掃活動など最中や活動後のお茶飲み会などで会話が弾むと、人間関係の形成に加えて、純粋な楽しみの心もくすぐられます。

他の活動への興味：

地域活動内での楽しさや効果が見つからず、他の活動への興味等が膨らんでしまった場合は、自身の中で地域活動の位置づけが下がってしまう場合があります。

○活動の楽しさや効果を上手く実感してもらえた場合 ⇒ 38 ページへ

○活動の楽しさや効果が実感できなかった場合 ⇒ 「限定的な活動参加」となります
35 ページへ

②活動の楽しさや効果を実感してもらうための働きかけ例

【地域活動団体のリーダーやメンバーができること】

■個人的な参加効果の実感のための働きかけ

- ・地域活動への参加の効果が可視化できる取組みを実施して、継続的な参加の面白さ実感してもらいましょう。

■メンバーによる団体の活動の効果等の把握のためのたらしかけ

- ・活動の勉強会を開催したり、団体の実績をデータでまとめたりして、メンバー全体で活動効果を把握したり、今後の活動に向けて幅広い視点を持ってもらったりしましょう。
- ・団体の活動の恩恵を受けている方々との交流会を開催して、改めて活動の効果や感謝してくれる人々の存在を実感できる機会を設けてみましょう。

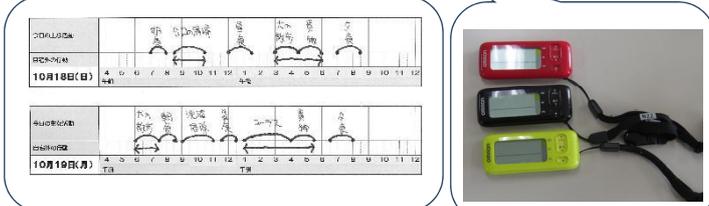
【団体の支援者ができること】

■個人的な参加効果の実感のための働きかけ

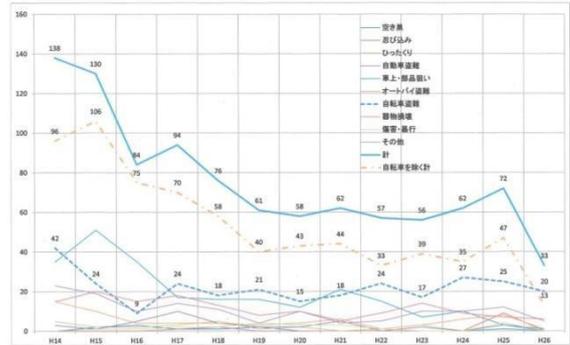
- ・活動量計などを用いて、メンバーの活動参加による効果を検証してみましょう。

■メンバーによる団体の活動の効果等の把握のための働きかけ

- ・メンバーと一緒に活動エリアの周囲のまちの雰囲気の変化を観察したりワークショップを開催したりして、周辺環境への活動効果を確認してみましょう。



活動量計・活動日誌を用いた調査、分析による活動参加における体力的効果の把握（詳細は 61 ページを参照）



地域の犯罪発生件数の推移の整理による活動効果の把握（幸町）



ワークショップでの地区の安全性や見守り活動の効果の確認（近文）



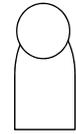
小学生とのふれあい集会和子どもたちからのプレゼント（近文）

『体力面からも継続しやすい活動だと感じてもらうためには？』

○団体の存在意義を実感している人や、活動に楽しさを見出している人は、体力面に無理がなければ活動への参加が習慣化していきます。一方で、高齢になるにつれて体力的な衰えてくるため、それぞれの体力に合わせた参加が可能となる雰囲気を団体内でつくっていくことが望ましいでしょう。

例えばこんな人

「地域住民からの感謝を受けて、健康であるうちは参加したいと思っています」



Pさん

「活動は楽しいので体力的に大変でなければ、今後も続けられそうです」



Qさん

【前後の場面との位置関係】

(高齢者の地域活動における『参加すどころ』の全体像については19ページをご覧ください)



①次の〈場面〉に進む〈要因〉

○「活動量・活動内容等の調整」から次の〈場面〉を決める〈要因〉としては**自身の体力**と**動量・活動内容**のバランスが重要となります。そのバランスの良し悪しで活動への参加状況が変わっていきます。

高齢による体力不安：

年齢が高くなると身体能力が下がり、それまで行うことができた活動ができなくなることがあります。高齢者が主体の活動では高齢者の体力面の不安が生じることは既定の問題として想定する必要があります。

活動内容・活動量の自主調整：

年齢や性別、健康状態などによって個人差がある体力に応じて活動内容を柔軟に調整できる仕組みが重要です。特に参加者の中でも体力面に対する考え方は様々で、いっぱい活動したい人や、無理のない範囲での参加に留めたい人などがいます。それぞれの参加の仕方を見出してもらうことが大切です。

地域活動を担う気力：

年齢が高くなると身体能力が下がり、それまで行うことができた活動ができなくなることがあります。

家族に対する負担：

年齢が高くなると身体能力が下がり、それまで行うことができた活動ができなくなることがあります。

- 継続しやすい活動だと感じてもらえた場合 ⇒ 「習慣的な活動参加」となります
- 継続的な参加に対する不安が大きくなった場合 ⇒ 「限定的な活動参加」となります 35 ページへ
- 継続的な参加が困難となった場合 ⇒ 「活動からの離脱」となります。下記の困みをご覧ください

②体力面からも継続しやすい活動だと感じてもらうための働きかけ例

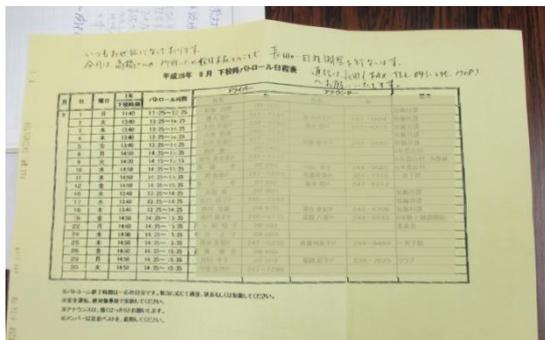
【地域活動団体のリーダーやメンバーができること】

■継続的な参加における体力面の不安軽減のための働きかけ

- ・メンバーを対象とした健康教室や体力維持のための体操教室なども活動に合わせて開催してみましょ。

■それぞれのメンバーに合った参加ペースの見出しのための働きかけ

- ・団体の人数を多くして、特定のメンバーに負担が集中しないようにしましょう。
- ・参加頻度や参加する活動内容の判断をそれぞれのメンバーに任せ、自身の体力に合わせて活動負荷を調整できるような雰囲気をつくる。例えば、体力に自信のない方同士でパトロールのグループをつくって、短いコースを回ってもらったり、あまり筋力を必要としない箇所の清掃を担当してもらったりする方法があります。



PTAと連携した防犯パトロールの毎日の参加メンバー調整 (幸町)

【団体の支援者ができること】

■継続的な参加における体力面の不安軽減のための働きかけ

- ・地域の他の活動団体と連携できる仕組みをつくり、体力的な負荷が大きい取組みは他の団体の若い世代がサポートできるようにする。
- ・メンバーや地域住民を対象とした健康サポートや体力面の相談会を開催してみましょ。

■それぞれのメンバーに合った参加ペースの見出しのための働きかけ

- ・体力に不安のある方でも参加が可能な活動のプログラムをリーダーやメンバーに提案してみましょ。

あがり③

「活動からの離脱・卒業」とは…

病気や高齢化に伴い体力が落ち、これまでどおりの団体活動に参加し難くなることにより、地域活動から離脱・卒業する場合があります。活動が続けられなくなった方たちに対しては、全ての活動を急にやめなくても済むよう、体力に応じた別の活動ができないか、適切な団体を紹介するなどといったコーディネーション役の役割を自治体などの第三者の立場で担うことも考えられます。

また、こうした体力の落ちた高齢者を地域でも見守る仕組みなども重要です。

世田谷区砧まちづくりセンターの機能→

*地域まちづくりの窓口と高齢者・障がい者・子育て支援の

窓口をまとめて相談しやすくしています

出典 : <http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/105/880/909/d00041006.html>



■ 専業主婦が担ってきた地域活動

昨今、地域活動の担い手が高齢化し若い世代に引き継げないという話をよく聞きます。地域包括ケアシステムの構築に向けて地域の支え合い体制づくりが求められていますが、高齢者のための地域活動では、70代が90代を支援している状況で、60代、50代の若い人がいない、というのです。地域活動は、地域の特性と住民の属性によって特徴づけられそれぞれ状況が異なりますが、ここでは古くからの地縁関係が希薄な大都市郊外のニュータウンについて女性の視点から考えてみたいと思います。

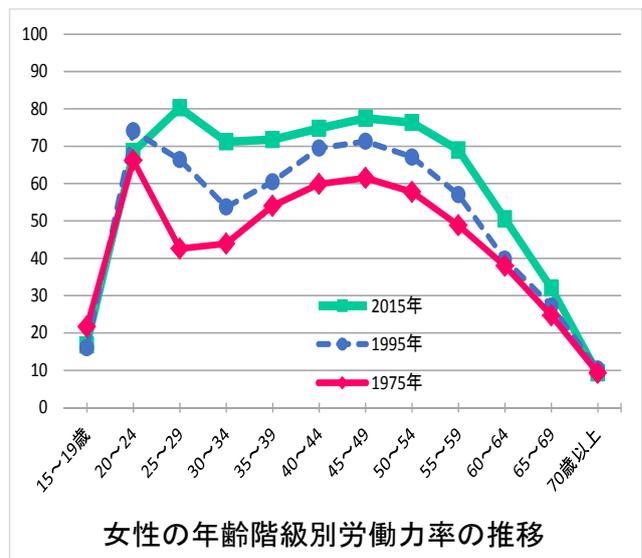
日本の代表的なニュータウンのひとつ、東京西部に位置する多摩ニュータウンは1971年にまち開きをし、子育て世代が一斉に入居しました。そのときに30歳前後の人々は現在70代半ばとなっています。この世代がこれまで行ってきた地域活動に注目してみましょう。入居後まもなく、自治会やPTA以外にも、生協運動などさまざまな地域活動が行われていました。特に子どものための活動は盛んで、地域文庫活動は数人の有志により始まり、またたくまに参加者が増え、図書館誘致などのまちづくりに関わる活動へと展開していきました。その後1980年代にかけて新しく周辺に建設された住宅団地においても、同様の文庫活動が多数生まれています¹⁾。

1975年は20代後半から30代にかけての子育て期の女性就業率が最も低く、専業主婦が主流の時代でした。子育て中の専業主婦が地域に数多くいて、暮らしや子育て環境を守るという切実な動機から地域活動が盛んに行われていました。女性たちは、地域活動にその能力とエネルギーを注ぎ、地域活動を通じて地域とのつながりを深め、人的ネットワークを作りつつ、活動のノウハウも蓄積してきたといえます。

子どもの成長を機に再就職をする女性がいる一方で、興味深いことは、子育て期の活動をきっかけとして、現在、高齢者を対象とした地域活動の運営で活躍している女性が少なくないということです。

■ 男女共同参画社会の地域活動

50歳前後の世代はどのような特徴があるのでしょうか。60代後半の団塊世代と40代前半の第二次ベビーブーム世代に挟まれた、人口が少ない世代で、男女雇用機会均等法が施行された1986年頃に就職時期を迎え、バブル景気を20代で経験し、1990年代半ばの雇用者の共働き世帯が専業主婦世帯を上回った時期に30歳頃となっていました。首都圏の高学歴女性を対象とした調査によれば、この世代の2割弱が未婚、2割が子どものいない夫婦（DINKS）であり、子どものいる女性は6割程度しかいません²⁾。



*労働力率とは就業者数と完全失業者数とを合わせた労働力人口が15歳以上の人口に占める割合。労働力人口÷15歳以上の人口（生産年齢人口）×100の数値で示す。 出典：総務省「労働力調査結果」より

70代世代に比べると専業主婦は圧倒的に少なく、まさに女性のライフスタイルが多様化した世代です。この世代の子育て時期は、生活環境も整えられてきているため、上の世代が共有していたような地域活動への動機付けも弱くなり、一般にサービスはお金を払って得るものという意識が広まった時期かもしれません。

50歳前後の世代は、そもそも人口が少なく、地域との関わりが必然的に生じる子育てというきっかけを持たなかった人が増え、就業率が高く地域で過ごす時間が少ない世代といえます。さらに、その上の60代も2000年以降就業率が高まり、70代に比べると男女ともに地域で過ごす時間が減っています。長時間労働、長距離通勤という仕事スタイルが変わらないのであれば、大都市郊外のニュータウンでは、男女共同参画社会の実現は、一方で地域活動の担い手を奪うという皮肉な結果を招きかねません。

■ これからの地域活動の担い手

世代により、特に女性は地域社会との関わり方が大きく変化してきていることを踏まえると、従来と同じような流れの中で、地域で活躍する人材を期待するのは難しいことがわかります。仕事をしながらでも、地域活動に無理なく参加できるような工夫や仕組みが必要とされています。また、同じ世代であっても子育て経験の有無や働き方により、ライフスタイルや生活感が異なります。地域活動自体も、同じ活動や運営方法を継続するという発想を転換し、これまで培ったノウハウを引き継ぎつつ、柔軟に対応することが求められているのではないのでしょうか。

実際に、高齢者の居場所づくりをしているNPOの女性理事が、「最近になり、定年後も働いていた70歳前後の男性が本格的にリタイアして、ポツポツ地域活動に参加し始めている」、「皆で考えて、喧々諤々やりながら皆で結論を出すというのが、女性のやり方だが、企業組織でしっかり仕事をしてきた男性は、立ち位置を上手にとりながら進めている」と語っていました。これは、同じようなタイプの後継者を望むだけでなく、世代や性別に関わりなく担い手を探すことで新しい展開があるということを示唆していると考えられます。

「リタイア後の地域デビュー」という言葉は、男性をイメージしたものです。女性は地域との関わりを持っているという暗黙の了解によるものですが、今後は女性にも地域デビューが必要となるでしょう。なぜなら、DINKSやシングルは性別にかかわらず、地域との関わりを持たずに生活している人が少なくないからです。こうした人々は将来高齢者になった時、家族のサポートが期待できない分、地域とのつながりがより一層重要になりますが、体力や経済力があるうちはその必要性を感じる機会がありません。地域活動に携わることは、地域活動の継続のためだけでなく、参加する人のためにもなることを、比較的早い段階から伝えていくことや、地域活動に関わる魅力的なきっかけづくりが大切ではないのでしょうか。

- 1) 「多摩ニュータウン物語」 鹿島出版会 (2012)
- 2) 「何故女性は仕事を辞めるのか」 青弓社 (2015)

(松本 真澄)

あとがき

○ まちづくり団体のニーズと高齢者要望のマッチングに向けて

今回の手引き作成を通じて、高齢者の地域活動の参加が家族や地域社会との多様な関わりの中で微妙なバランスの上に成立していることを改めて強く感じました。

本書では、主として首都圏近郊に住む、勤め人を定年退職した後の男性が地域活動に参加することを想定した分析結果を紹介してきましたが、検討会の先生方によるコラムでは、世代や性別、住んでいる地域による変化など、高齢者をとりまく環境は実に多様であることが示されています。この手引きで紹介した様々な取り組みの工夫は、定年退職後の男性だけではなく、女性にもあてはまるものがあると考えています。また、定年退職を迎える前から少しずつ地域活動に関わりを持ちたいと思っている方にも参考になる内容が含まれているのではないのでしょうか。

この手引きは、地域活動団体の代表者やメンバーが、今まで何となく地域活動に参加してもらいたいと声掛けを行ってきた状況から、活動に参加してもらいたい高齢者の体力、意識、状況などに応じて、よりの確な声掛けが行えるよう、一石を投じているものだと考えています。

また、地域や対象者がおかれている状況によっては、今回取り上げていない新たな参加促進要因や阻害要因、より効果的な働きかけの方法などが見出される場面があると思われます。多様な地域社会の状況の中で、読者の皆さまがこの手引きを参考に生きた情報を付け加え、皆さまの環境に適した地域活動参加促進の方法を見出し、地域で共有して頂きたいと考えています。

○ 「高齢者が支える地域社会」が描く未来像

本書を作成するにあたって、10年以上地域の皆さんと楽しく地域活動を行ってきた数多くの団体の皆さまから様々な示唆をいただきました。活動を始める時は「10年」はとてつもなく長く思えますが、そうした活動を経験してきた皆さんのスタンスは驚くほど軽やかです。そして、地域で活動することを心から楽しんでいらっしやいます。慣れ親しんだ地域で、それぞれが持てる技術や経験をいかんなく発揮しながら、心を許す人々に多く囲まれて、地域の子ども達、若いお父さん・お母さんたちとも交流しながら、とても心豊かに過ごされている様子を目の当たりにしてきました。

例えば郊外の戸建て住宅地など、様々に異なる個性や背景を持ち、たまたま隣近所に住むことになった集団の中で、自分たちが安心して暮らせる街を自ら作ってきた先達の達成感に満ちた沢山の笑顔がある一方で、地域との関わりを絶って孤独に暮らす高齢者がおられることも事実だと思えます。一人でも多くの方が新たな地域社会の中で充実した老後を楽しんでいただける社会となることを願ってやみません。

(石井 儀光)